

花園に浦高ラグビーの雄姿!

●よくやってくれました!

昨日は「第93回全国高校ラグビー大会」が行われ、母校・浦和高校ラグビー達が結果は残念でしたが素晴らしい試合を見せてくれました。さらに、**応援団が4000人…?** 素晴らしい母校愛ですね。昨夕、観戦に行った同期生にメールを送りました。

* *

「八木様、お疲れさまでした。浦高ラグビーたちの晴れ舞台はいかがでしたでしょうか? 結果はインターネットで見ましたが、試合は19時30分からのテレ玉です。今宵は望年会が入っており、明日、録画で見ることになりそうです。結果はともかく全国に浦高ラグビーの雄姿を見せてくれたことは感動です。花園での2トライ、ぜひ、応援記録をお送りください。気をつけてお帰りください。香田拜」

八木さんからは昨夜、次のようなメールが…、ありがたいことです。



「お疲れさまです。今、5人の浦高ラグビー部顧問を囲む会から帰ってきました。OB会だけでも200人以上の出席でした。矢部日本ラグビー協会専務からすごい応援に協会も驚いたと挨拶がありました。応援は多分4000人ぐらいだと思います。すごかった。負けて悔しいけどひたむきに良くやりました。来年も楽しみです。」【写真①と文は八木英二さん、浦高同期生(25回生)でラグビー部OB】

* *

◆浦和、全国初勝利ならず 光泉に12-22 全国高校ラグビー



ラグビーの第93回全国高校大会第2日は28日、東大阪市の花園ラグビー場で1回戦11試合を行い、埼玉代表で54年ぶり2度目の出場を果たした浦和は光泉(滋賀)に12-22で敗れ、全国初勝利はならなかった。しかし、花園には数千人規模の応援団が詰め掛け、健闘した選手たちに大きな声援と拍手が送られた。

出場を果たした浦和は光泉(滋賀)に12-22で敗れ、全国初勝利はならなかった。しかし、花園には数千人規模の応援団が詰め掛け、健闘した選手たちに大きな声援と拍手が送られた。

■果敢な攻撃、観衆沸かす

高校ラグビーの聖地・花園の第1グラウンド。天気は晴れてグラウンド状態も良好。バックスタンドの右側半分は浦高の応援団で埋め尽くされ、メインスタンドにも数え切れないくらい多くのファンが駆け付けた。この日のために用意された2千本の小旗とマフラータオルがなくなるほどの異様な熱気。観客の公式発表は約1万3千人。最高の舞台に半世紀の時を超えて浦高フィフティーンが姿を現した。

浦和は試合を通して果敢に球を動かした。17分には敵陣から球をつながれ、先制トライを許す苦しい展開。しかし、30分に相手ゴール前のラックからSH神が出すと、SO室田がそのまま駆け抜け同点トライ。5-5で折り返した。

後半は開始直後の2分にPGを決められると、12分、18分と敵陣から相手のFBに突破を許し、5-22とリードされた。それでも24分、敵陣で左右に球を振って攻め続け、最後はラックからSH神、SO室田、WTB白石とつないでトライ。その後球を支配して攻め、最後まで諦めない姿勢にスタンドは沸いた。

力及ばず花園1勝は夢に終わったが、OBで13年目の小林監督は「この花園の第1グラウンドにすごくいい舞台を整えてもらった。選手は緊張してどうかなと思ったが、臆することなくいつも以上のプレーをやってくれた」と感謝。フッカー柴田主将は「(応援に)返すのは勝つことだと思っていた」と残念がった後、「でも『すごかったよ』と言ってくれた人がいた。自分たちは前を向いて胸を張って『やったぞ』と言いたい」と涙を拭いて誇らしげに語った。

【埼玉新聞、12月29日】

* *



ラグビー部 全国大会出場! 応援ありがとうございました! (2013.12.28)【写真③:浦高HPより】【写真下

④⑤:27日の開会式風景、浦高HPより】



◆花園で燃えた60分 大応援団、奮闘後押し 全国高校ラグビー



「よくやった」「ありがとう」。全国高校ラグビー大会第2日の28日、花園ラグビー場第1グラウンドの第2試合に登場した浦和フィフティーンには大声援と万雷の拍手が送られた。54年ぶり2度目の出場となった全国大会は光泉（滋賀）に12-22で初戦敗退。初勝利はなかったが、60分間で濃紺のジャージーが見せた奮闘は大きな感動を呼んだ。

圧巻の光景だった。正面から見て右のバックスタンド南側は第1試合途中から満席。この日のためにチームが作った紺の応援用小旗とマフラータオルを小脇に抱えたOBら浦高ファンが大量に占拠した。応援団が入れ替わり、選手が登場すると、待ってましたと無数の旗が揺らめく。あらかじめメインスタンドに陣取っていたファンも一斉に姿を現した。用意された応援グッズは早々となくなり、ラグビー部の小川洋一部長（58）は浦高関係者が「数千人いたんじゃないか」と推測する。

在校生は前日夜に夜行バスで埼玉を出発し、朝10時半ごろに現地入り。応援団長の西守賢恭君（2年）は「OBや先輩たちの思い全部を一つにして選手に届けたい」。生徒会長の安田耕大君（2年）は「まさか自分の代で来られるとは。彼らは浦高の誇り」と部員らを見詰めた。柴田尚輝主将の母、幸子さん（49）は「夢がかなった」と晴れ舞台に立った息子を見守った。

試合は先制された後、前半30分にSO室田浩輔選手の同点トライでファンは大声援。17点をリードされた後半24分にWTB白石充選手が2本目のトライを挙げると、さらなる歓声が湧き起こった。試合には敗れたが、花園ラグビー場はつかの間、まるで浦高のホームグラウンドだった。

元監督の小畔東関東ラグビー協会副会長（69）は試合後、「言うことない。こんないい試合をやってくれたんだから。これを将来につなげてほしい」と感激。OBで元監督の坂下辰夫県ラグビー協会理事長（60）は「いつか花園で会おうと言った人たちに10、15年ぶりに会えた。こういう機会をくれた子どもたちと小林監督にありがとうと言いたい」と感謝する。OB会の活動で働き回った志田明幹理事長（44）は「OBは夢を見させてもらった。選手は負けて悔しいだろうが、われわれは満足している」と活躍をねぎらった。

【埼玉新聞、12月29日】

* *

今朝の在京各紙のスポーツ欄には、大きく取り上げられていました。読売新聞【写真⑦】では、「悲願の『1勝』も遠くはないだろう」と結ばれていました。

東京新聞には…。

◆浦高散った 高校ラグビー

全国高校ラグビー大会第2日は28日、東大阪市の花園ラグビー場で1回戦の残り11試合を行い、54大会ぶり出場の県浦和（埼玉）は光泉（滋賀）に12-22で敗れた。

明和県央（群馬）は初出場の坂出第一（香川）に113-0で大勝。国学院栃木は55-7で鹿児島工を下し2回戦に進んだ。

30日の第3日はAシードの東海大仰星（大阪第1）や桐蔭学園（神奈川）、大阪桐蔭（大阪第2）などが登場する。

◆「集大成」胸張る

全国屈指の進学校で、54大会ぶりの出場を果たして注目を集めた県浦和は1回戦で涙をのんだ。5-5で折り返した後半に突き放され、小林監督は「光泉に力が及ばなかった」と潔かった。

前回出場時の会場は西宮球技場だった。初めての花園での試合。大応援団の声援にも後押しされ、力を尽くした。1年間磨き続けた展開プレーで何度も防御を破り、柴田主将は「このチームはボックスに回すというのを貫いてきた。あれだけできたのは集大成」と胸を張った。

大舞台での試合を終え、小林監督は「机の上で学ぶこともあるけど、グラウンドで築き上げてきたもの、学んだことはそれ以上に大事」と話した。

試合終了後は号泣していた柴田主将も「目の前の目標やその先の夢をかなえるために、この経験は生かさなきゃいけない」としっかり前を向き、花園を去った。【写真⑦：光泉に負けグラウンドに崩れ落ちる浦和・軽部＝花園ラグビー場で】

【東京新聞、12月29日】

* *

私はテレビ機材からのエールでしたが、年の瀬に本当に嬉しい“夢”と“元気”を与えてくれた後輩たちに心から感謝、そして満足ですね。

